

NHK

屋敷陽太郎さん

基本にあるのは
「信頼関係」

プロフィール

1970年富山県氷見市に生まれる。京都大学法学部を卒業後、1993年にNHKに入局し、ドラマ番組部に配属される。これまでに『クライマーズ・ハイ』、『篤姫』、『真田丸』など数々の作品にプロデューサーとして携わってきた。現在はNHK人事局の副部長を務めている。

はみだし
すてーじ

働けど働けど我が暮らし楽にならざり…お腹がすきました。
⇒じっと手を見る

(地環・院 S213の竹)
(あら不思議、だんだん手のひらがもみじ饅頭に見えてきますよ～；編)

子供のころからテレビに興味があったのですか？

テレビはNHKしか見てはいけない、と言われて育ったんです。父親がとても封建的な人でしたから。しかも見ていいのは大河ドラマ、NHKスペシャル、ニュース、日曜討論、囲碁だけで、例えば朝ドラとかラブロマンスなんかを見るのは禁止されていたんですよ。だから、本を読んだり映画を見たりするのは好きでしたけど、そもそもテレビを見る時間自体が少なかったんで、テレビなどの映像メディアにとりわけ興味があったわけではないんですよ。

京大法学部を目指した理由は何ですか？

小学1年生のときに、家族で近衛通にある楽友会館の食堂に行ったら、京大工学部出身の父親に「お前も京大に来るんだぞ」って言われたんです。それ以来、漠然と京大に行くものだと思っていましたね。それから、高校時代に国際政治学者の高坂正堯先生の本を読んだのも大きかったです。歴史の物の見方や歴史文化の勉強が楽しいと気づき、高坂先生のもとで勉強したいという思いが強くなっていったんです。それで、京大の法学部を本気で目指すようになりました。

法学関連のアルバイトをしていたそうですが。

「アルバイトをしている暇があったら勉強しろ」と父親に言われていました。だから、いとこの家庭教師と、法学部事務室の地下書庫で『法学論争』という学術紀要を整理するアルバイトくらいしかしませんでしたね。書庫整理のアルバイトは、所属していたサークルの関係で紹介してもらったんですよ。『法学論争』の整理をするついでに、自分が好きな先生方が若いときに執筆した論文をさかのぼって全部読むことができたので、とても良い経験になりましたね。

大学までについて

大学時代にサークル活動はしていましたか？

サークル活動は2つやりましたね。1つ目は、法学部の同窓会組織である有信会の学生委員です。OB向けの会報、『有信会誌』の編集や、卒業アルバムの作成などに携わりました。『有信会誌』には、例年OBが法律問題について語り合う座談会記事があったのですが、自分が編集長を務めた年にはそれを廃止して、代わりに当時話題になっていた京都駅建て替え問題について法学部OBはもちろん、工学部OBの建築者の方などにも取材しました。その当時から、人の話を聞

くことは楽しいなと感じていましたね。2つ目は、法律相談部です。2回生のときに、先輩に誘われて入部しました。相談に来た依頼者から話を聞きだすのが得意だったんです。また、通常の活動以外にも、NFでは裁判劇をやりました。資金集めや演出を担当したのが印象に残っています。



◀ 〇一七年度の会誌の表紙

大学時代にやっておきたかったことはありますか？

月並みですが、もっと勉強しておけばよかったな、もっと本を読んでおけばよかったな、と思います。だから、学生の皆さんには、ぜひ大学生活を謳歌して、ゆっくり学問をしたり、本を読んだりしてほしいですね。大学は就職予備校ではないですから。僕なんて、しょっちゅう仲間同士で朝まで飲んで、恋愛や宗教、職業なんかについて熱く語り明かしていました。これは学生時代にしかできない経験ですよ。今振り返ってみると、本当に宝物の時間だったと思いますね。

はみだし
すてーじ

南部食堂より北部食堂より美味しい！
⇒ぜひとも食べてみたいものです！

(薬・院 だるせぐの)
(比較対象は何??；編)

どうしてNHKに就職されたのですか？

大学2年生くらいまでは、大学院に行って国際政治学の研究者になりたいかったです。でも、2年生の試験結果が出たときに、自分に研究者は無理だと悟りました。それで、大学を卒業したら就職しようと思ったんです。最初は商社マンを夢見ていたんですが、就活ではせっかくだから1業種1社ずつは話を聞こうと、旅行代理店や運輸、銀行などいろいろな企業を回りました。そんな中で、有信会の友人の誘いで話を聞きに行ったのがNHKでした。そこで話をしてくれたディ

レクターの人が、1時間くらい仕事の話をもっとくせずに、最近別れた彼女の話をしたんですよ。それで「なんて自由でいい会社なんだ！」と感動したのがきっかけで、NHKに興味を持つようになりました(笑)。NHKの話聞いていくうちに、番組を作るということは、他人の職業の力を借りることだとわかりました。例えば、大河ドラマを作るためには、歴史の専門家の力を借りなければなりませんよね。仕事として、他の人の仕事を取材・観察し続けられるのは楽しいだろうなと思ったのが、NHK入社の大きな動機になりました。

ハリウッドに1年間留学されたそうですね。

入局してドラマ部門に配属されて数年経ち、自分の中で「このままでいいのかな？」と悩む気持ちが出てきたんです。それで、世界のやり方を見てみたいと思って、自分で希望してハリウッドに行きました。ハリウッドの学校では、インド人とアメリカ人の生徒と協力して、7～8分のショートフィルムを制作しました。脚本を一から作ったり、夜中に有名な先生のスタジオで音楽を録音したりと、とても良い経験をさせてもらいました。ハリウッドは日本とは別世界でした

今後の目標を教えてください。

ドラマって、生きていく上で絶対必要なものではないですよ。でも、僕は子供のときにドラマを通して、人として素敵な生き方とは何か、あるいは、卑怯な生き方とは何かを学びました。これは今でもすごく素敵な思い出として残っているんです。だから、テレビ離れが叫ばれている昨今ではありますが、メディアがどのように変わったとしても、視聴者の皆さんの心の糧になるようなドラマ・映像コンテンツを作り続けていきたいと思っています。



NHKでの仕事について

よ。予算、撮影日数、町の皆さんの映像コンテンツに対する理解……。冗談ではなく、本当に町全体が映像産業のためにあるような感じでしたね。

普段の仕事のスケジュールを教えてください。

ドラマのチーフプロデューサーをやっていたときは、結構不規則な生活をしていました。撮影期間中は毎朝、キャストの方々に「おはようございます」と挨拶することから仕事が始まるんです。その後は編集や試写、SNSのチェックなどをし、夜に「お疲れさまでした」とキャ

ストの方々に挨拶をしたら、一日の仕事は終了です。本当に曜日関係なく朝から晩まで働いていましたね。その代わりドラマの撮影が終わると、スケジュールに少し余裕ができるので、1カ月半くらい有給を取って海外へ行ったこともありましたよ。今は人事局に異動になったので、だいたい朝9時から夕方5時まで、毎日規則正しく仕事をしています。ドラマ部門時代から考えるととても新鮮ですね。

ご自身のターニングポイントとなったドラマはありますか？

取材の大切さを改めて感じることで

きたのは、新聞社を題材にしたドラマ『クライマーズ・ハイ』です。ドラマを長くやっているけどどうしても、人が困ったときの芝居はこう、泣くときの芝居はこう、みたいに安易に決めつけるようになってしまふんです。でも、取材を通して実際に新聞社の皆さんの仕事を観察していると、実はそんな単純なものではなく、それぞれの仕事にそれぞれの物語があるんだ、ということに気がさせられました。他にも、朝の連続テレビ小説『私の青空』で、ロケマネージャーという地元の方たちの窓口役を担当したときには、地元の方たちと信頼関係を築き、一緒にドラマを作り上げていく喜びを知ることができました。彼らは、共に苦労しながら番組を作り上げたいわば戦友なので、何人かとは今でも連絡を取り合っています。

仕事で大切なことは何だと思いますか？

最も大切なのは、イノベーションだと思います。NHKでは、ベルトコンベヤーみたいに「こういうドラマを作ってください」と上からトップダウンで仕事が降ってくる、なんてことはまずありません。基本的に、局内でグループを作って企画を立ち上げ、採用を勝ち取るという、コンペ方式がとられています。新しいものを生み出すことができなければ、競争を勝ち抜いて企画が通ることはありません。ドラマ制作に限らず、仕事というのは、新しいものを見つけていくこと・作り出していくことだと思いますね。また、脚本家や俳優のキャスティングに際しては、いかに個人的な信頼関係を築けてい

るかが重要です。当然ですけど、人は「NHK」という名前だけでは動いてくれません。我々制作者との間の信頼関係があることで、初めて協力していただけるのです。

春から京大に来る新入生にひとことお願いします。

自分の興味がある分野はもちろん、それとは違う分野の本を読むことも大切だと思います。僕は法学部でしたが、ローレンツの『攻撃』や、トレヴェリアンの『イギリス社会史』、司馬遼太郎の『竜馬がゆく』なんかを読みましたね。特に『竜馬がゆく』は、読み始めたらあまりにも面白くて、夜中に自転車で続巻を買いに行ったこともありました(笑)。

最後に、京大生へのメッセージをお願いします。

京大での4年間が僕は本当に楽しかったです。京大に来たおかげで幸せな人生を送らせてもらっていると感じています。ほとんどの人が京大の近所に住んでいて、吉田キャンパスに通学していますよね。何時まで飲んでも家まで帰ることのできる今の学生生活は本当にかけがえのないものですよ。世の中と隔絶した雰囲気を持ちながら、不思議と一体感に満ち溢れている、いわば時空が歪んでいるように感じられる京大での学生生活を、ぜひ満喫してください。

— ありがとうございます。

はみだし
すてーじ
こたつから出たくない
⇒もう4月ですよ！

(農・2 みかん)
(ところで、私はこたつに一度も入ったことがありません；編)

はみだし
すてーじ
梅が大好きです。
⇒京都には梅の名所がいくつもあるのでびったりですね。

(経・3 GREEN)
(この号が発刊される時には見ごろは過ぎているかもしれませんが；編)